

< ##html:content_type## >

メールマガジン 埼玉県議会



発行：埼玉県議会



No.345 2021.6.30

県議会テレビ番組「こんにちは県議会です」6月20日(日曜日)放送「議長インタビュー」

県議会広報テレビ番組「こんにちは県議会です」(テレビ埼玉)では、各定例会の様式や各委員会委員長のインタビューなど県議会に関するさまざまな情報を放送しています。

今号のメールマガジンでは、ご覧になれなかった方のために、20日(日曜日)に放送した「議長インタビュー」の内容をお伝えします。



[☆放送スケジュールなど詳しくは、県議会のホームページをご覧ください。>](#)

INDEX



県議会広報

- ・テレビ番組「こんにちは県議会です」「議長インタビュー」
- ・本会議テレビ中継



議事堂の花

生け花のご紹介



県議会広報

【こんにちは県議会です「議長インタビュー」】

〈木下高志 議長〉

昭和34年生まれの61歳
埼玉県議会自由民主党議員団所属

西第10区 坂戸市選出
平成22年、県議会議員に初当選（現在4期目）
総務県民生活委員長、人材育成・文化・スポーツ振興特別委員長、議
会運営委員長などの要職を歴任
今年3月、第124代埼玉県議会議長に就任

議長 県民の皆さま、こんにちは。このた
び、埼玉県議会第124代議長を拝命いたしま
した木下高志でございます。どうぞよろしくお
願ひいたします。



—さて、議長に就任されてから2か月あまり
経ちましたが、どのような感想をお持ちで
しょうか。—

議長 はい。新型コロナウイルス感染症対策の議案などを審査するため、
もう既に5回の臨時議会が行われましたが、歴史と伝統ある埼玉県議会の
議長という、職責の重さに身が引き締まる思いでございます。

本年は埼玉県が誕生して150周年を迎える節目の年ですが、150年もの
長きに渡り、先人の方々が幾多の困難を乗り越えてきたからこそ、現在の
埼玉県があると思っております。このご労苦に心から敬意を表するととも
に、その志をしっかり受け継いでいこうと考えています。

—大変強い決意をお持ちなのですね。—

議長 現在の埼玉県においては、新型コロナウイルス感染症が猛威を振
るっており、総力を挙げて対策を講じなければなりません。

議長になりました、改めて県議会の歴史を調べましたら、明治12年になり
ますが、本県を含め全国的にコレラが流行し、当時開催されていた第1回
通常県会ではそのコレラ対策の議案が上程されておりました。まさに、今
議会に通じるころがあります。当時、対策には困難を極めたとの史実が
ありますが、それでも先人たちはコレラを封じ込めました。今の県議会もこ
の精神を受け継いでしっかりと政策を進めていきます。

新型コロナウイルス感染症対策につきましては、疫学上の数理モデルに
基づく流行予測を基本に、論理的に進めていくことが重要だと考えておりま
す。また、感染症対策と並行して、ポストコロナの社会構築に向けて、デジ
タル・トランス・フォーメーションを県内に波及させ、超スマート社会、
「Society5.0」と呼んでおりますが、これを早期実現に導くことも重要です。
県民一人ひとりが将来に夢と希望を持てるような郷土埼玉を築くために、
先人に負けないよう全力を尽くしてまいりたいと考えております。

—政治家を志したきっかけをお聞かせください。—

議長 私は、政治家になる前、自分の暮らす
地域を活性化させたいと思って、まちづくり
ボランティアに長い間、真剣に取り組んでま
いりました。



まちづくりボランティアを進めていると、政
治家の方々がいろいろなところに関わって
くるんですね。そうした政治家の方々に、時
には協力していただいたり、時には励まして
いただいたり、いつの間にか自らも政治家になっ
て、もっと大きな視点でま
ちづくりに関わりたいと思うようになっていま
した。

—ボランティア活動の延長線上に政治活動があったわけですね。ボラン
ティア活動は、具体的にどのようなことに取り組まれたのでしょうか。—

議長 高麗川の清掃活動といった環境保全活動や国際交流フェスティバ
ルなど地域を活気づけるイベントなどを行っていました。

—国際交流フェスティバルではどのようなことが行われたのですか。—

議長 各国の大使館の大使をお招きして、自分の国とこの地域を比較して評価していただきました。参加された方は、「自分たちの街は外国の方から見てもこんなに素晴らしいところなんだ」と、気づきを得ることができました。地域に対する誇りの形成につながったと思っております。

—素晴らしい取り組みですね。他にはありますか。—

議長 地元・坂戸市の稲荷神社のかやぶき屋根の再生です。職人の指導を受けながらですが、地域の人たち自らの手で修復作業を行ったんです。協働して作業することで、地域の結束が高まりました。しかも、この活動は「彩の国景観賞」にも選ばれたんです。



—すごいですね。まさに本気で打ち込んだ成果ですね。今もボランティア活動は続けていらっしゃるのですか。—

議長 政治活動があるので、昔ほどはできないのですが、可能な限りやっています。最近では、このコロナ禍で草が生い茂っているところが目につくようになっていたので、社会奉仕のつもりで草刈り機を購入しまして、除草作業をしております。

—自ら、汗水流して。—

議長 ええ、大汗かいて。時々、業者の人と間違われましてね。「よ、ご苦労さん！」なんて声をかけられたりします。



—そんなことがあるんですね。さて、議長は聞くとところによると、民間企業の管理職として働かれていたということですね。—

議長 はい。49歳で埼玉県議会議員になる前はサラリーマンで、割と順調に過ごしていたのですが、でもこの時、全てを投げ打ってでも、政治家としてまちづくりに挑戦したいという思いに駆られたんです。

—周囲の皆さんの反応はどうでしたか。—

議長 家族や身近な人たちには大反対されましたね。家族の協力なしにはこの仕事はできないと思い、必死で説得しました。今は、支えてもらっております。とても頼りになる存在です。一方で、はじめから応援するぞとってくれた人もたくさんいました。どちらの反応も、私のことを思ってくれたの事だと思っております、ありがたい気持ちでいっぱいです。

—応援してくれたのはどんな人たちですか。—

議長 地域を活性化しようとボランティアと一緒にやってきた仲間たちです。いつの間にか強い絆ができて、今もその仲間たちと活動を行っております。

—そこまで強い思いをお持ちになった理由は何でしょうか。—

議長 そうですね。明確にはわかりませんが、ただ私の家には「世のために尽くさなければならない」という教えがありました。昔、先祖が私財を投げ打って皆のために道路や橋をつくっていたんです。そんな家で育ちましたから、もしかすると、そうした教えが自然と身に着いていたのかもしれない。

—会社員としての経験が役立っているなど感じることはありますか。—

議長 サラリーマン時代、仕事の年度計画や見込みを数値として立てるんですが、その際に「出来ると思います」との曖昧な表現はだめなんです。「出来ます」とコミットメントできるかどうか、決意を込めて言い切ることができるか。これが大切なんだ。」と教えられました。

数字に対する目標や達成責任をしっかりと意識して取り組んでいくことの大切さが身に染みております。県議会議員を続ける上で、この姿勢は貫いていきたいと考えております。

—木下議長は現在4期目ですが、県議会議員としてこれまでにさまざまなお仕事に取り組んでこられたと思います。その中で特に印象に残っていることは何でしょうか。—

議長 いくつかありますが、2年前の台風19号、東日本台風が特に印象に残っております。



—埼玉県でも各地で甚大な被害がありましたよね。—

議長 あの日の深夜、地元を流れる県管理河川を私は見回っていたのですが、次第に水位が上がって越水して、地域が飲み込まれていく、そのさまを目の当たりにして驚愕しました。また、絶望感に駆られました。被害に遭われた一人ひとりの顔が頭に浮かんで、その皆さんが悲しい思いをしていると思うと、いたたまれない気持ちでした。地元県議会議員としての責任を強く感じました。県民の皆さんの安心・安全を守ること。これが私たち議員の一番の使命だと考えております。二度とこのようなことが起きないように、災害に強い埼玉県にするための対策に心血を注いで取り組んでまいります。

—ここからは、木下議長のプライベートについても伺ってまいります。趣味と言うと、どのようなことが挙げられますか。—

議長 子どもの居場所づくりですね。地域の皆さんと一緒に、使われていない林に大きなブランコやハンモックを設置したりしまして、子どもが自然と触れ合いながら遊ぶことのできる環境づくりをしているんです。



—子どもたちがとても喜びそうですね。—

議長 休日になりますと地域の子子どもたちが楽しそうに遊ぶ声が聞こえてくるんです。その声がとても心地良いです。うるおいのある地域づくりにつながっているように感じております。

—子どもたちの明るい声を聞くと元気をもらえますよね。—

議長 そうですね。坂戸市の教育委員を務めていたとき、防災無線で児童の声による下校時の見守り放送を始めたんです。子どもたちの声で呼びかけることで、地域全体で子どもたちを守ろうという、育てようというムードづくりにもつながったと思っております。

—私も聞いたことがあるのですがけれども、そのようなアイデアはどこから生まれたのでしょうか。—

議長 実は、七夕のイベントがありまして、子どもたちに短冊に夢を書いてもらったんです。その中で、「アナウンサーになりたい」と書いた子がいたんですね。自分たちで今叶えてあげられるものはすぐに叶えてあげようと思いい、この取り組みが実現したんです。

—子どもにとって嬉しいことですね。—

議長 そうですね。子どもたちと地域の双方に良い影響を与えることができたと思っております。

—では、「座右の銘」はありますか。—

議長 「一人で見える夢はただの夢、みんなで見る夢は現実になる。」これはジョン・レノンの言葉です。



—冒頭に議長がおっしゃっていた「Society5.0」や、強い決意を語っていただいた「災害に強い埼玉県」は、「みんなで見る夢」の一つですか。—

議長 そのとおりです。県民みんなでこの夢を現実にしていかなければいけないと思っています。

実は、私がこの言葉を座右の銘にしているのは、前向きで素敵な言葉であるだけでなく、自分への戒めの意味も込めているのです。

議員として活動していく中で、ひとりよがりの政策ではなく、みんなが賛同できるような政策をつくっていかねばならないと、この言葉を胸に刻んでおります。

—なるほど。そういった意味もあるのですね。ところで、お話を伺っていると、議長にはいい仲間がたくさんいらっしゃるようです。仲間づくりのコツについて教えてください。—

議長 私は「誠実であること」だと思っております。人は、人と付き合おうとしたとき、人間性とかその人の根底にあるものを見ます。人のために努力するとか、相手のことを思いやるとか。そういう当たり前のことが大切なんだと思っております。

—では最後になりますが、今後の議会運営に当たっての抱負をお聞かせください。—

議長 県民の皆さまの負託に応えるためには、議会がチェック機能を最大限に発揮することはもちろん、県民の皆さまの声に耳を傾け、議員同士が活発に議論し、積極的に政策提言を行っていくことが重要だと考えております。

二元代表制の一翼を担う県議会が、その役割と責務を果たすことができるよう、微力ではありますが、私もこれまで培った経験を生かし、公正かつ円滑な議会運営に精一杯努めてまいります。

皆さまには、より一層のご支援、ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

【本会議テレビ中継】

皆さまに広く議会の活動を知っていただくため、本会議の様態をテレビ埼玉で中継します。中継内容は次の通りです。ぜひご覧ください。

【生中継】

- ・ 閉会日(委員長報告まで) 7月2日(金曜日)10:00~12:00

[☆本会議テレビ中継については、県議会のホームページをご覧ください。≫](#)

[▲トップへ](#)

議事堂の花

このコーナーでは、議事堂ホールに飾られた生け花をご紹介します。
【協力 埼玉県いけばな連合会】



- ◆展示期間
6月7日～6月11日
- ◆作者
遠州むさし野派 杉野 一信様
- ◆花材
スモーク、サンキライ、レザーファン、カラー、ハイブリットチース

◇◆生け花の作者の方にお聞きしました！◆◇



〈遠州むさし野派 杉野 一信様〉

Q: 今回の生け花は、どんなイメージで生けましたか。

A: 季節は、これから梅雨に向かい初夏になってゆきます。初夏を感じさせるような緑を使い、爽やかさを演出しました。

Q: 生ける際のポイントを教えてください。

A: 花器に合わせて、花材を選ぶことや、季節感を求めて生けています。また、議事堂は大きな空間のため思っている以上に大きく生けるようにしています。

[☆現在展示中の作品や過去の展示作品は、県議会ホームページでご覧になれます。》](#)

[▲トップへ](#)

【注意】

●メールマガジンにおいて氏名の一部にJIS規格第1・第2水準にない文字がある場合、第1・第2水準の漢字で表記しています。

【お問い合わせ】

●[「メールマガジン埼玉県議会」の登録・解除はこちらから](#)》

※登録事項(メールアドレスなど)を変更する場合には、お手数ですが、変更前のメールアドレスを一度解除してから新規に登録してください。

●「メールマガジン埼玉県議会」についてのお問い合わせ・感想はこちらまで！

E-mail a6250-03@pref.saitama.lg.jp

埼玉県議会議務局政策調査課

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1 電話 048-830-6257/FAX 048-830-4923

© 2008 Saitama Prefecture All Rights Reserved. 無断転載を禁じます。

